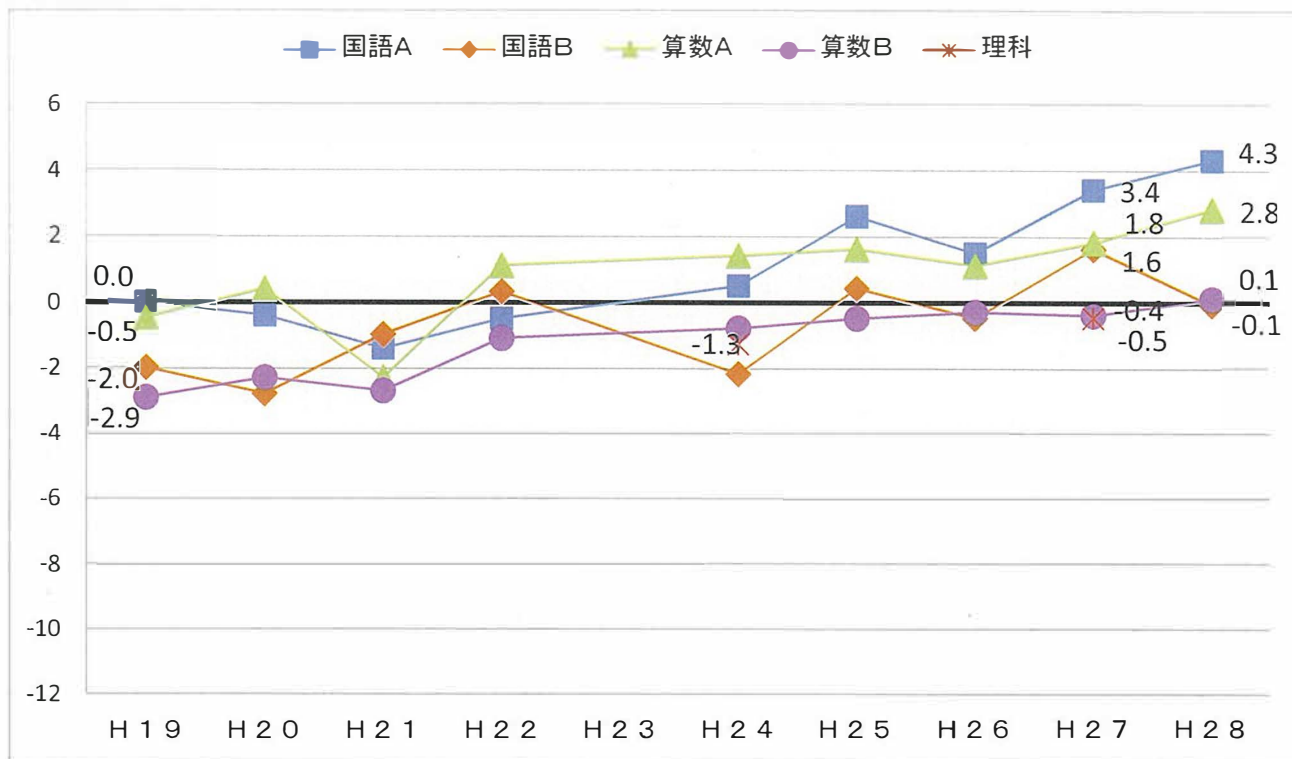


平成28年度全国学力・学習状況調査結果

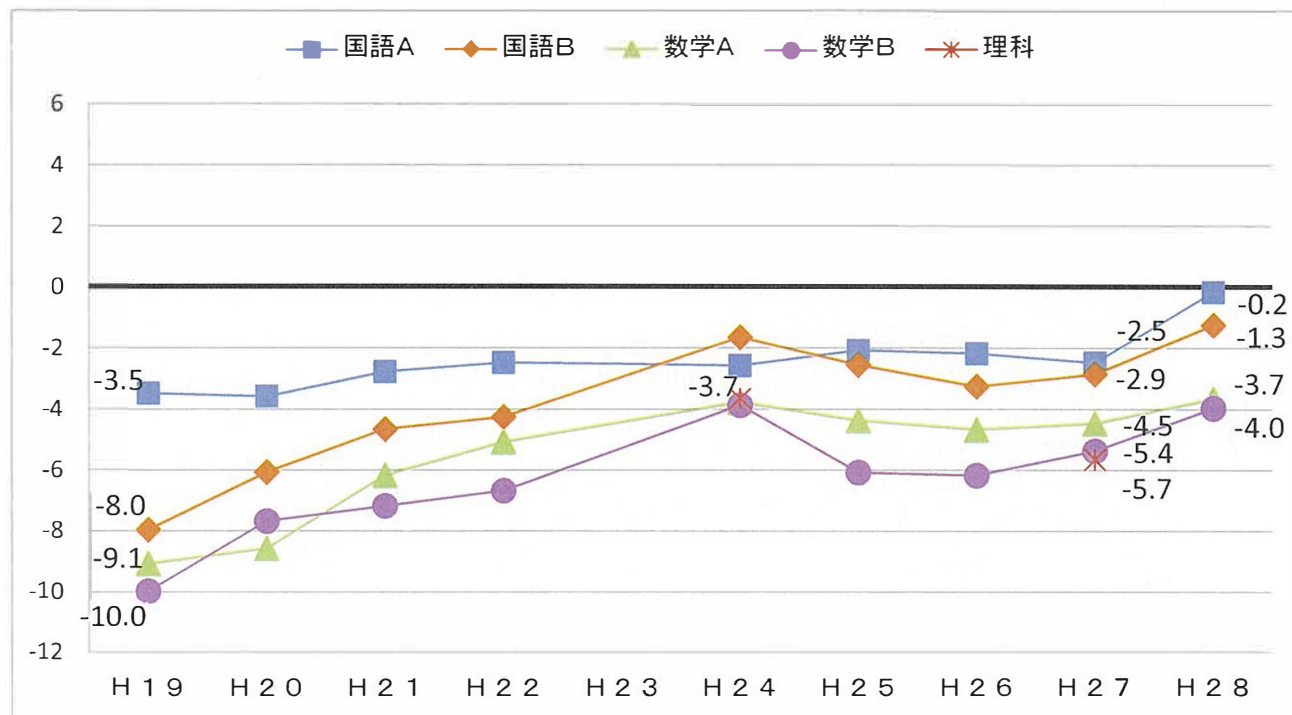
平成28年9月30日

高知県教育委員会事務局

[全国平均正答率との差]
小学校調査

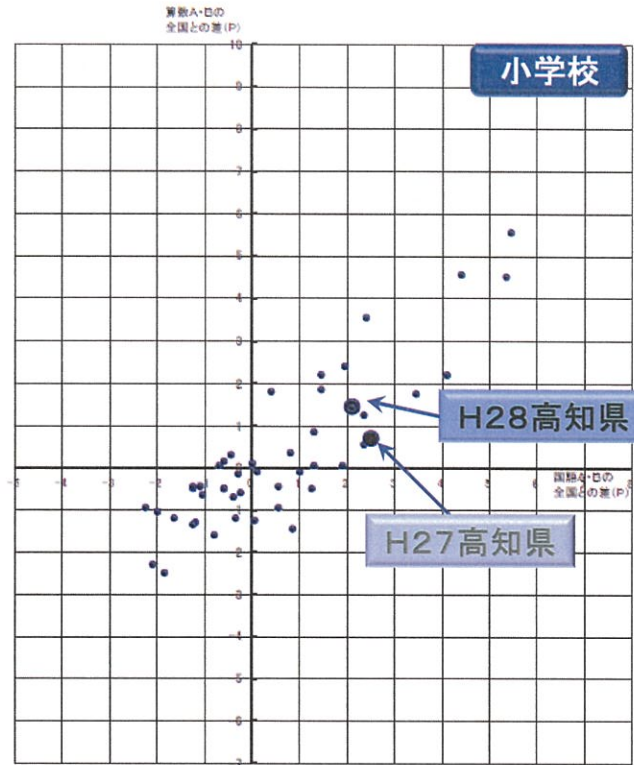


中学校調査

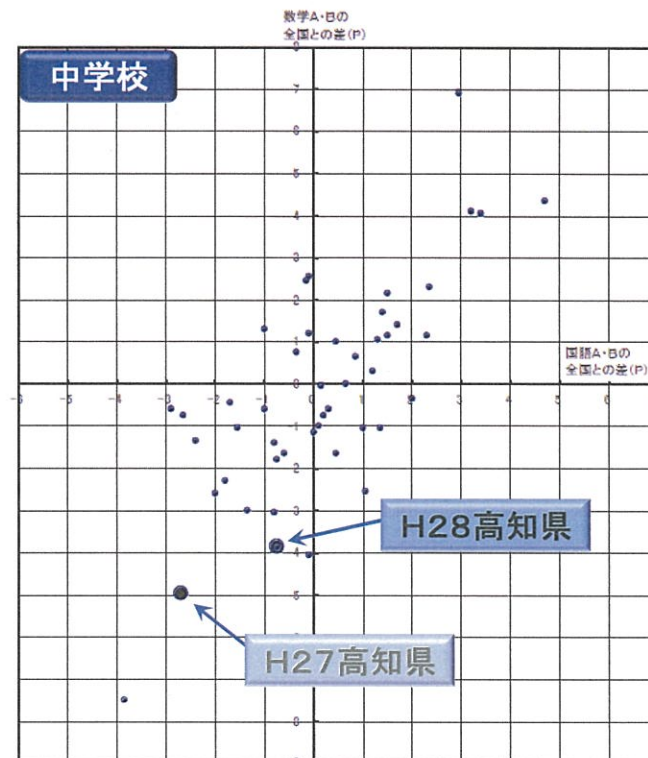


※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国の値はない。)

各都道府県平均と全国平均との差



各都道府県平均と全国平均との差



1 教科に関する調査結果の比較

小学校(国語・算数)

	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差	
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)		
A	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
	平成23年度	81.0			82.3		
	平成22年度	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	-0.5	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	1.1
	平成21年度	68.5	69.9	-1.4	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0	81.6	82.1	-0.5
B	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8
	平成23年度	44.3			46.2		
	平成22年度	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	0.3	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	-1.1
	平成21年度	49.5	50.5	-1.0	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0	60.7	63.6	-2.9

小学校(理科)

	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
平成27年度	60.3	60.8	-0.5
平成24年度	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.3

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※理科については、平成24年度と平成27年度に実施した調査結果を示している。

中学校(国語・数学)

	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差	
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)		
A	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
	平成23年度	78.5			54.3		
	平成22年度	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-2.5	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-5.1
	平成21年度	74.2	77.0	-2.8	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6	54.5	63.1	-8.6
	平成19年度	78.1	81.6	-3.5	62.8	71.9	-9.1
B	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9
	平成23年度	61.0			45.2		
	平成22年度	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-4.3	36.6 (35.4~37.9)	43.3 (43.1~43.5)	-6.7
	平成21年度	69.8	74.5	-4.7	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0	50.6	60.6	-10.0

中学校(理科)

	理科平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
平成27年度	47.3	53.0	-5.7
平成24年度	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-3.7

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※理科については、平成24年度と平成27年度に実施した調査結果を示している。

2 教科に関する調査の結果

【小学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率は77.2%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えること [6 63.0%]
 - ・平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと [8 256.1%]
- 国語B（活用）の平均正答率は57.7%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・目的に応じて、質問したいことを整理すること [1 47.3%]
 - ・グラフを基に、分かったことを的確に書くこと [2 44.9%]

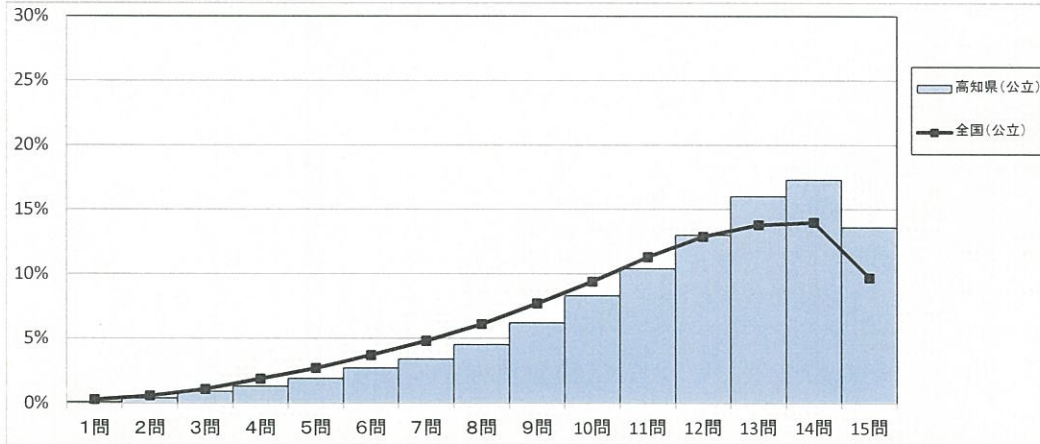
平成28年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語A 主として知識]
高知県－児童(公立)

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	5,427	11.6/15	77.2	12.0	2.9
全国(公立)	1,021,905	10.9/15	72.9	12.0	3.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	0.0
1問	0.1
2問	0.4
3問	0.9
4問	1.3
5問	1.9
6問	2.7
7問	3.4
8問	4.5
9問	6.2
10問	8.3
11問	10.4
12問	13.0
13問	16.0
14問	17.3
15問	13.6

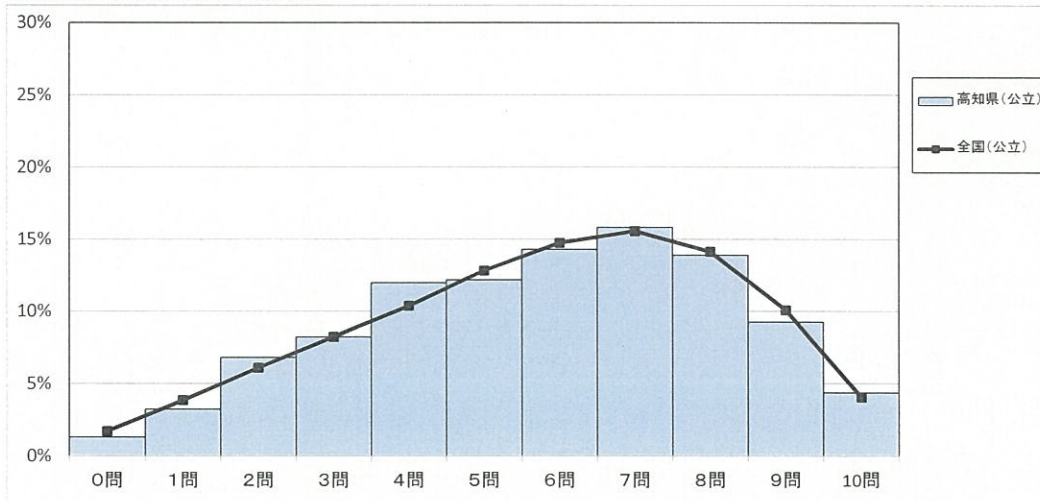
平成28年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語B 主として活用]
高知県－児童(公立)

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	5,425	5.8/10	57.7	6.0	2.4
全国(公立)	1,021,635	5.8/10	57.8	6.0	2.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	1.3
1問	3.2
2問	6.7
3問	8.1
4問	11.8
5問	12.0
6問	14.1
7問	15.6
8問	13.7
9問	9.1
10問	4.3

【小学校算数】

- 算数A（知識）の平均正答率は80.4%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・除数と被除数に同じ数をかけて（小数）÷（小数）を（整数）÷（整数）に置き換えても、商は変わらないことを理解すること [1 (2) 66.7%]
 - ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること [9 (2) 54.1%]
- 算数B（活用）の平均正答率は47.3%で、例えば、次のような課題が見られた。
 - ・示された式の中の数値の意味を、ほかの数値や演算と関連付けて解釈し、それを言葉や数を用いて記述すること [2 (3) 18.7%]
 - ・示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること

平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [算数A 主として知識]

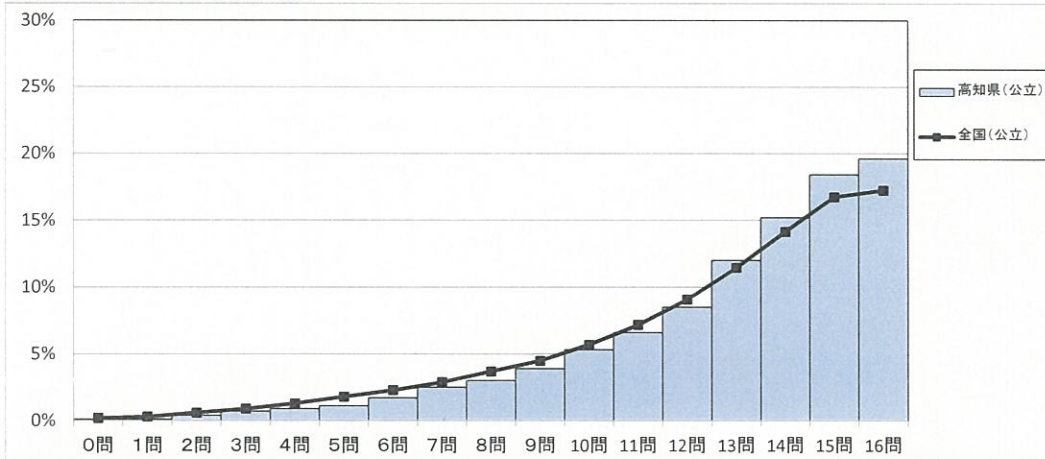
高知県一児童(公立)

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	5,427	12.9/16	80.4	14.0	3.1
全国(公立)	1,021,910	12.4/16	77.6	13.0	3.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	0.1
1問	0.1
2問	0.4
3問	0.7
4問	0.9
5問	1.1
6問	1.7
7問	2.5
8問	3.0
9問	3.9
10問	5.3
11問	6.6
12問	8.5
13問	12.0
14問	15.2
15問	18.4
16問	19.6

平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [算数B 主として活用]

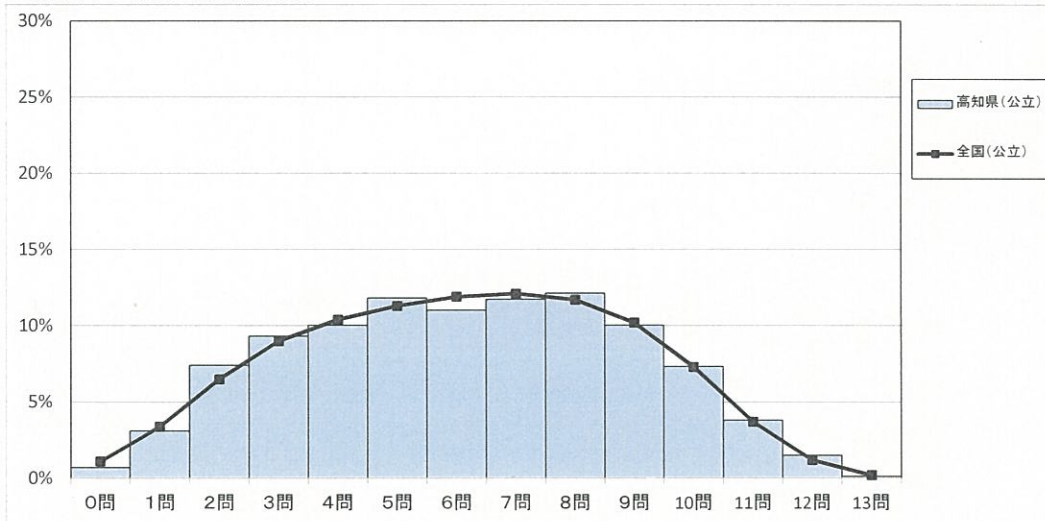
高知県一児童(公立)

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	5,425	6.2/13	47.3	6.0	2.8
全国(公立)	1,021,637	6.1/13	47.2	6.0	2.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	0.1
1問	3.1
2問	7.4
3問	9.3
4問	10.0
5問	11.8
6問	11.0
7問	11.7
8問	12.1
9問	10.0
10問	7.3
11問	3.8
12問	1.5
13問	0.1

【中学校国語】

○ 国語A（知識）の平均正答率は75.4%で、例えば、次のような課題が見られた。

- ・文の成分の照応について理解すること [9五 49.3%]
- ・文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと [9六 28.5%]

○ 国語B（活用）の平均正答率は65.2%で、例えば、次のような課題が見られた。

- ・課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること [2三 43.5%]
- ・本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと [3三 56.6%]

平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語A 主として知識]

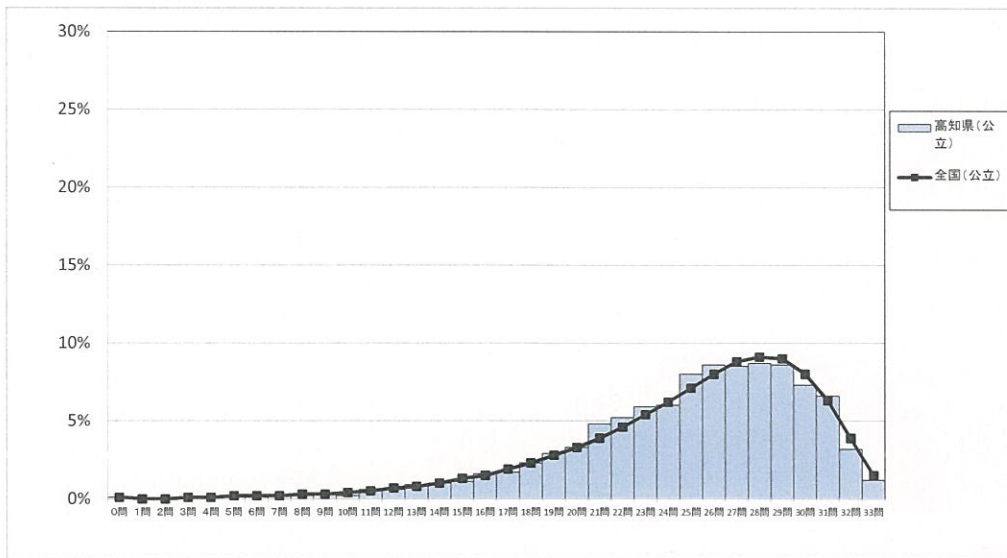
高知県一生徒(公立)

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	4,886	24.9/33	75.4	26.0	5.1
全国(公立)	996,188	25.0/33	75.6	26.0	5.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	0.1
1問	0.0
2問	0.0
3問	0.0
4問	0.1
5問	0.1
6問	0.1
7問	0.2
8問	0.2
9問	0.3
10問	0.2
11問	0.6
12問	0.6
13問	0.9
14問	1.0
15問	1.1
16問	1.6
17問	1.7
18問	2.3
19問	2.9
20問	3.3
21問	4.8
22問	5.2
23問	5.9
24問	6.0
25問	8.0
26問	8.6
27問	8.5
28問	8.7
29問	8.6
30問	7.3
31問	6.6
32問	3.2
33問	1.2

平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概況 [国語B 主として活用]

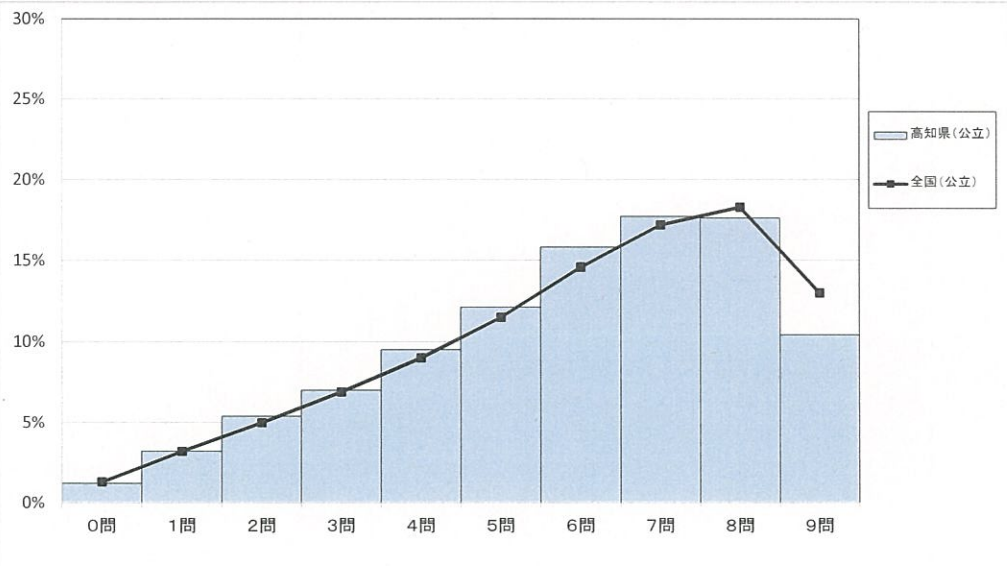
高知県一生徒(公立)

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	4,882	5.9/9	65.2	6.0	2.2
全国(公立)	996,365	6.0/9	66.5	6.0	2.3

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	1.2
1問	3.2
2問	5.4
3問	7.0
4問	9.5
5問	12.1
6問	15.8
7問	17.7
8問	17.6
9問	10.4

調査問題(中学校国語A)

【正答例】
つまり、北極点より南極点の平均気温の方が低いのです

一
正答率
高知県62.7%
(全国64.7%)

二
正答率
高知県80.3%
(全国78.7%)

- 一 山田さんは、自分の答えを読み返して、次のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
 - 1 時間の流れに沿って内容を並べ替えて分かりやすくするため。
 - 2 引用と自分の意見を区別して分かりやすくするため。
 - 3 異なる二つの内容を整理して分かりやすくするため。
 - 4 専門的な語句を一般的な語句に言い換えて分かりやすくするため。
- 二 「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか？」というQ(質問)に対する答えが明確になるように、「鈴木さんの答えの」に当てはまる言葉を、文のつなぎを覚えて二十五字以内で書きなさい。

【山田さんの答え】

南極点です。
1年間の平均気温は、南極点では約-50℃ですが、北極点では約-18℃です。一般的に、海と陸とを比べると、陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、高くなります。標高が高い方が気温が低くな。実際に、南極点は大陸にあります。北極点には海や氷が広がっています。そして、南極点の高さは約2800mですが、北極点はほぼ海面と同じです。

【鈴木さんの答え】

北極点は「海」にあり、南極点は「大陸」にあります。一般的に、海より陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、南極点は北極点より標高が高く、標高が高い方が気温が低くなります。1年間の北極点の平均気温は約-18℃ですが、南極点は約-50℃です。

4 山田さんのグループでは、北極と南極について調べたことを「Q&A」(Question and Answer: 質問と、それに対する答え)の形式でまとめています。次は、「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか？」というQ(質問)に対して作成している【山田さんの答え】と【鈴木さんの答え】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

調査問題(中学校国語B)

【正答例】
表は、日付を大きく示していて、開催期間が把握しやすい。裏は、「……ませんか」と呼びかける表現を用いて、親しみがわきやすい。

正答率
高知県67.7%
(全国68.0%)

- 三 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】には、それぞれどのような表現の工夫がありますか。また、それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。
- 条件1 「表は、……。裏は、……。」という形で書くこと。
- 条件2 表現の工夫と、その効果を具体的に書くこと。
- 条件3 四十字以上、八十字以内で書くこと。

**暮らしの中の
伝統文化展**



第1期
うるしの世界

2016年 **5月21日(土)** - **6月19日(日)**

開館時間 : 午前9時30分~午後5時
休館日 : 月曜日
入館料 : 一般300円 大学生・高校生200円
中学生以下無料

第2期: 「和紙の世界」6月25日(土)~7月24日(日)
第3期: 「織物の世界」7月30日(土)~8月28日(日)

草木市立博物館
〒900-9859 草木市南町7
電話 000-123-xxxx
<http://www.hakubutsukan.xx.jp>

1 次の【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】を読んで、あとの問いに答えなさい。
【博物館のちらし(表)】

【中学校数学】

○ 数学A（知識）の平均正答率は58.5%で、例えば、次のような課題が見られた。

- ・数量の関係を文字式に表すこと [2 (1) 27.4%]
- ・反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すこと [9 (4) 28.2%]

○ 数学B（活用）の平均正答率は40.1%で、例えば、次のような課題が見られた。

- ・前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること [2 (2) 16.6%]
- ・与えられた式を用いて、問題を解決をする方法を数学的に説明すること [6 (2) 10.8%]

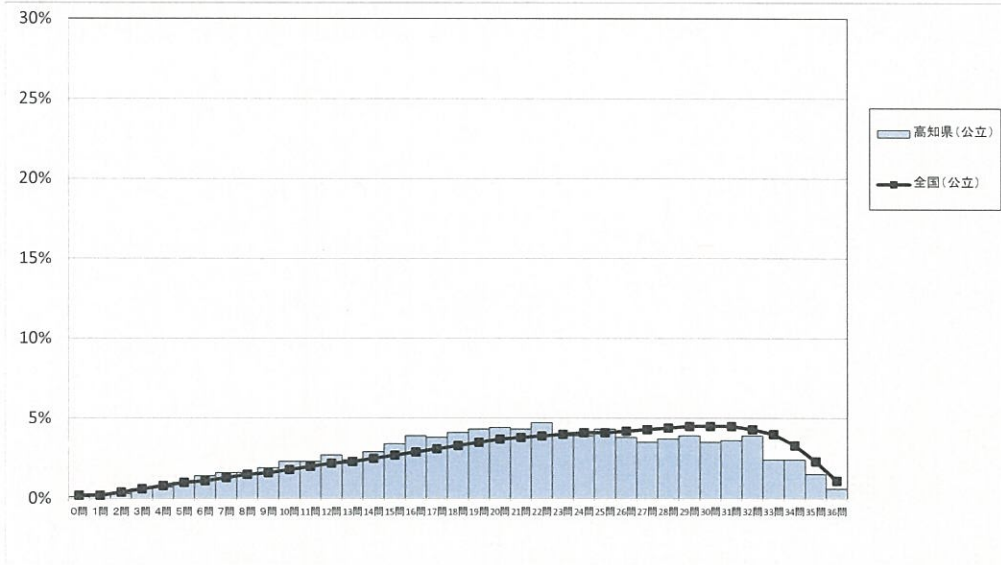
平成28年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学A 主として知識]
高知県一生徒(公立)

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	4,875	21.1/36	58.5	21.0	8.1
全国(公立)	996,502	22.4/36	62.2	23.0	8.3

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数 (割合 (%))	
0問	0.1
1問	0.2
2問	0.3
3問	0.6
4問	0.7
5問	1.0
6問	1.4
7問	1.6
8問	1.6
9問	1.9
10問	2.3
11問	2.3
12問	2.7
13問	2.4
14問	2.9
15問	3.4
16問	3.9
17問	3.8
18問	4.1
19問	4.3
20問	4.4
21問	4.3
22問	4.7
23問	3.9
24問	3.9
25問	4.3
26問	3.8
27問	3.5
28問	3.7
29問	3.9
30問	3.5
31問	3.6
32問	3.9
33問	2.4
34問	2.4
35問	1.5
36問	0.6

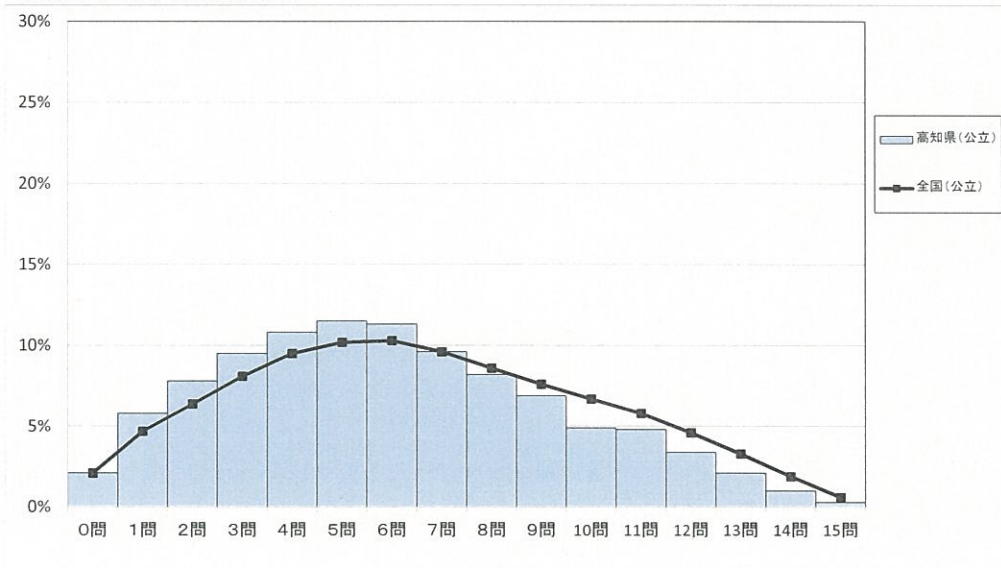
平成28年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学B 主として活用]
高知県一生徒(公立)

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
高知県(公立)	4,877	6.0/15	40.1	6.0	3.3
全国(公立)	996,578	6.6/15	44.1	6.0	3.5

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

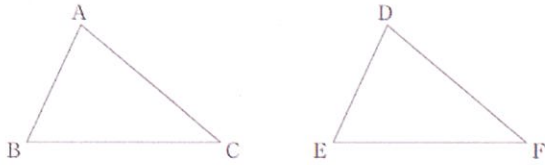


正答数 (割合 (%))	
0問	2.1
1問	5.8
2問	7.8
3問	9.5
4問	10.8
5問	11.5
6問	11.3
7問	9.6
8問	8.2
9問	6.9
10問	4.9
11問	4.8
12問	3.4
13問	2.1
14問	1.0
15問	0.3

調査問題(中学校数学A)

- 7 (1) 次の図の△ABCと△DEFが合同であるかどうかを調べます。
 このとき、対応する辺や角について、どのようなことがわかれば
 合同であるといえますか。正しいものを下のアからエまでの中から
 1つ選びなさい。

正答率
 高知県63.9%
 (全国70.8%)



- 4.9% ア $\angle B = \angle E, BC = EF$
 17.8% イ $\angle A = \angle D, \angle B = \angle E, \angle C = \angle F$
 12.7% ウ $AC = DF, BC = EF$
 63.9% エ $\angle B = \angle E, \angle C = \angle F, BC = EF$

- 11 水が20L入った水そうがあります。この水そうから毎分3Lの割合
 で水を抜きます。水そうの水を抜き始めてからx分後の水そうの水の
 量をyLとしたとき、yをxの式で表しなさい。

正答率
 高知県42.9%
 (全国53.0%)

【正答例】

$$y = -3x + 20$$

数学A・B通して
 全国平均と最も
 差があった問題

調査問題(中学校数学B)

1

進行表

←10分→		60分								←10分→	
開会式	第一試合 1組対2組	休憩	応援 合戦	休憩	第二試合 2組対3組	休憩	応援 合戦	休憩	第三試合 1組対3組	閉会式	

進行表から、1試合の時間をa分、1回の休憩をb分、1回の
 応援合戦をc分とすると、 $3a + 4b + 2c = 60$ という式ができます。
 これをもとに、二人は話し合っています。

葉月さん「1回の休憩を5分、1回の応援合戦を6分としよう。
 このとき、1試合10分はとれるかな。」
 海斗さん「 $3a + 4b + 2c = 60$ という式を利用して考えられ
 ないかな。」
 葉月さん「 $b = 5, c = 6$ になるから、aがわかりそうだね。」

1回の休憩を5分、1回の応援合戦を6分とするとき、1試合の
 時間を10分とすることはできますか。下のア、イの中から正しいもの
 を1つ選び、それが正しいことの理由を、 $3a + 4b + 2c = 60$ の
 式をもとに説明しなさい。

- ア 1試合の時間を10分とすることはできる。
 イ 1試合の時間を10分とすることはできない。

【正答例】(イを選択)

$3a + 4b + 2c = 60$ の式に、 $b = 5, c = 6$ を代入すると、 $3a + 32 = 60$
 これを解くと、 $a = \frac{28}{3}$

これは10より小さいので、1試合の
 時間を10分とすることはできない。

正答率
 高知県47.1%
 (全国51.4%)

3 質問紙調査の結果（児童生徒質問紙）

* 「肯定群」は、選択肢の「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」、「している・どちらかといえば、している」、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」など、肯定的な選択肢を選択している場合を表している。
 * 文中の「ほぼ同じである」は、全国との差が±2ポイントの範囲内にあることを表している。
 * 高知県（経年）は、悉皆調査であった調査年度の結果を掲載している。

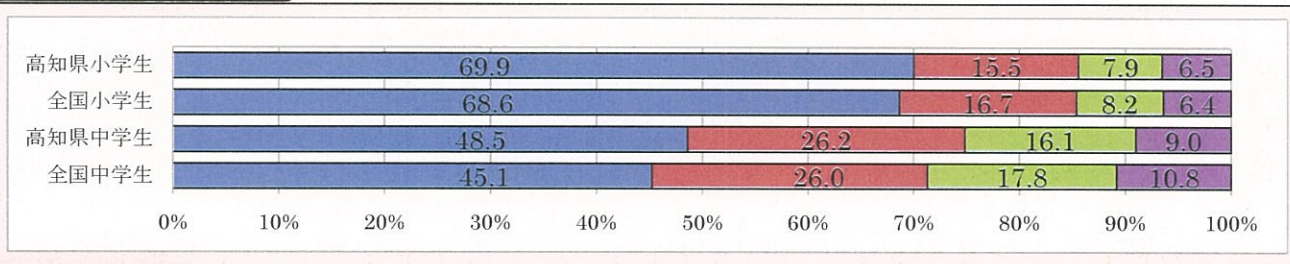
高知のキャリア教育の柱「社会性の育成」

【将来の夢や目標を持っていますか】

全国と比較すると、肯定群の割合は、小学生ではほぼ同じであり、中学生では3.6ポイント上回っている。

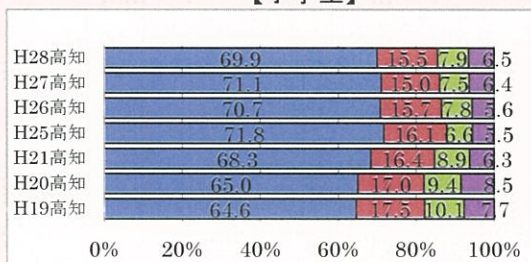
平成 28 年度調査結果

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

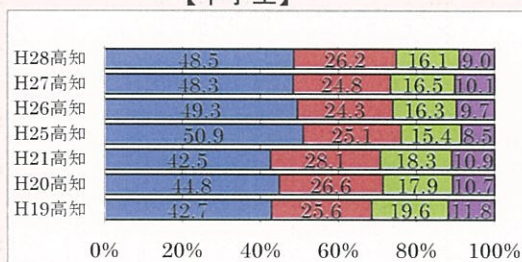


高知県（経年）

【小学生】



【中学生】

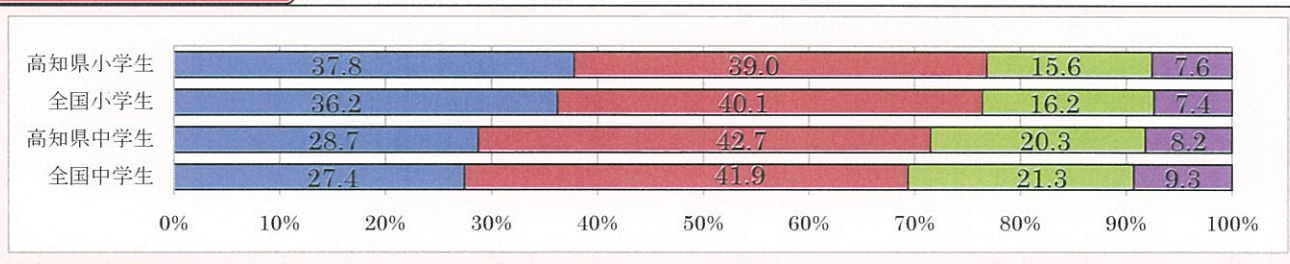


【自分には、よいところがあると思いますか】

全国と比較すると、肯定群の割合は、小学生ではほぼ同じであり、中学生では2.1ポイント上回っている。

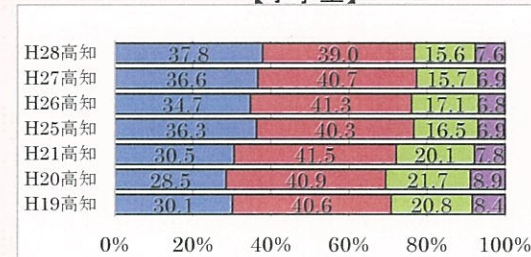
平成 28 年度調査結果

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

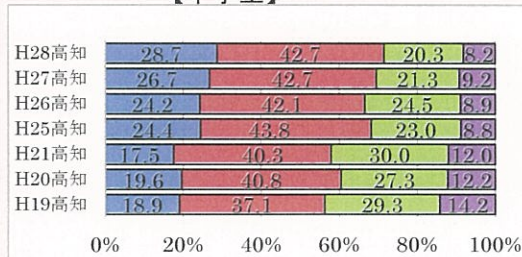


高知県（経年）

【小学生】



【中学生】



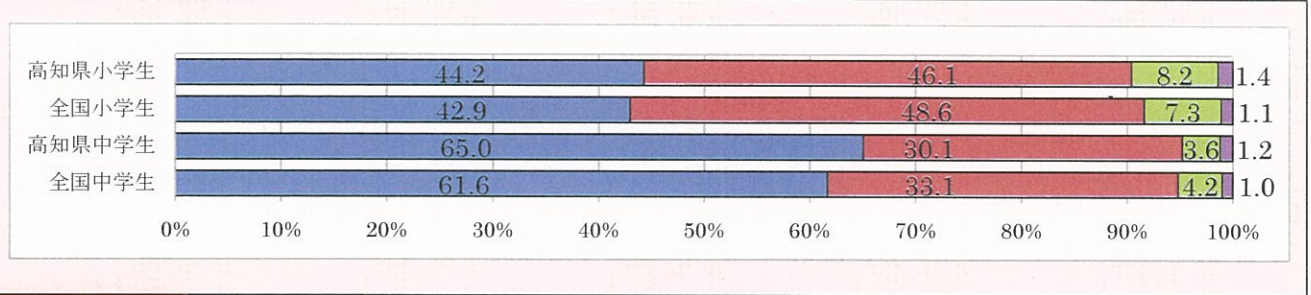
高知のキャリア教育の柱「基本的生活習慣の確立」

【学校のきまり（規則）を守っていますか】

小・中学生ともに、肯定群の割合は、全国とほぼ同じである。

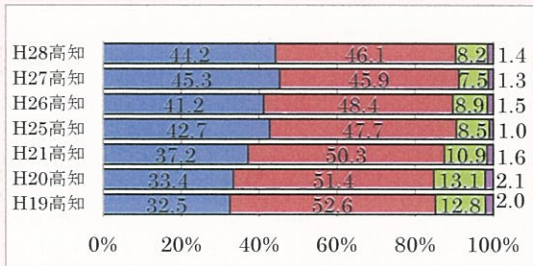
平成 28 年度調査結果

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

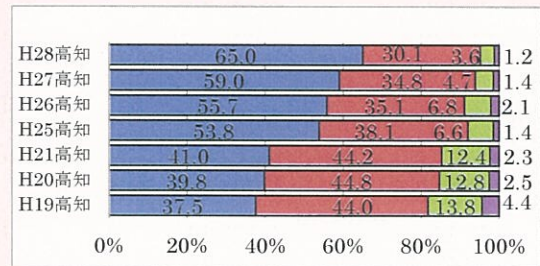


高知県（経年）

【小学生】



【中学生】

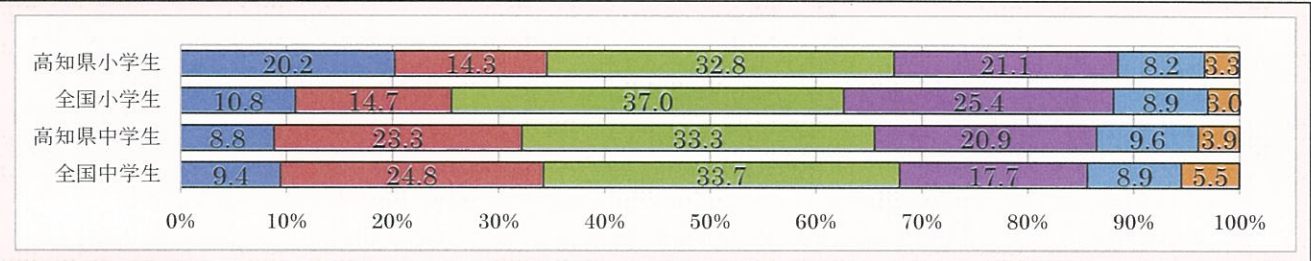


【学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】

小・中学生ともに、勉強時間が「30分未満」の割合は、全国とほぼ同じである。

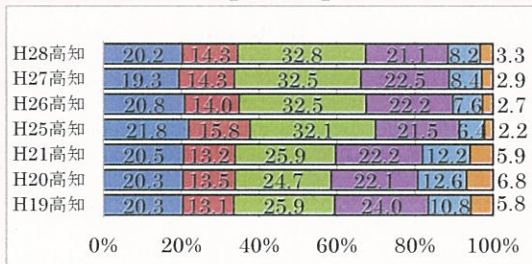
■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない ■ 全くしない

平成 28 年度調査結果

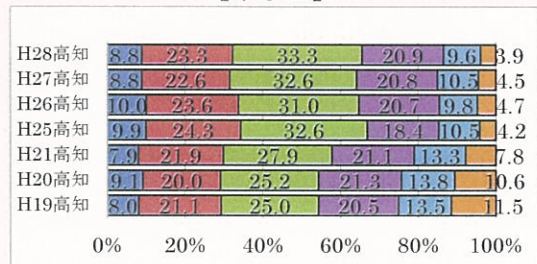


高知県（経年）

【小学生】

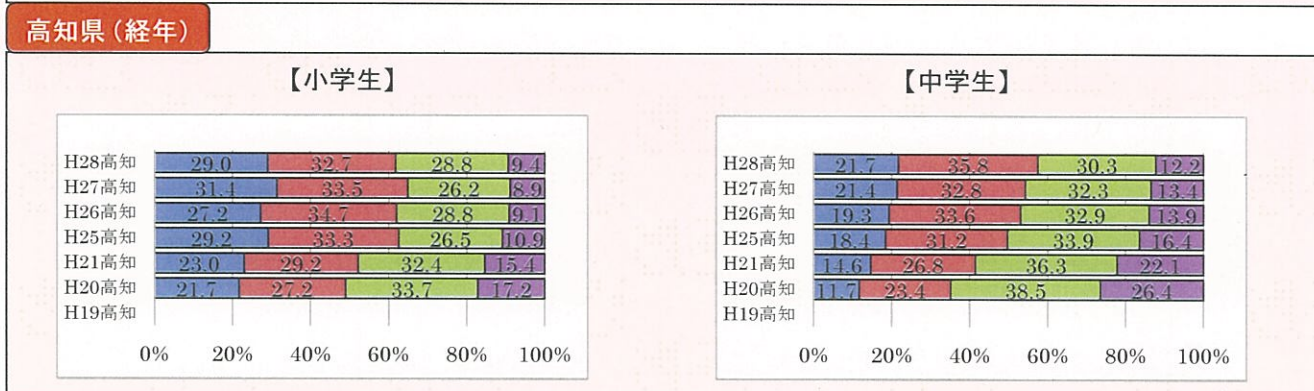
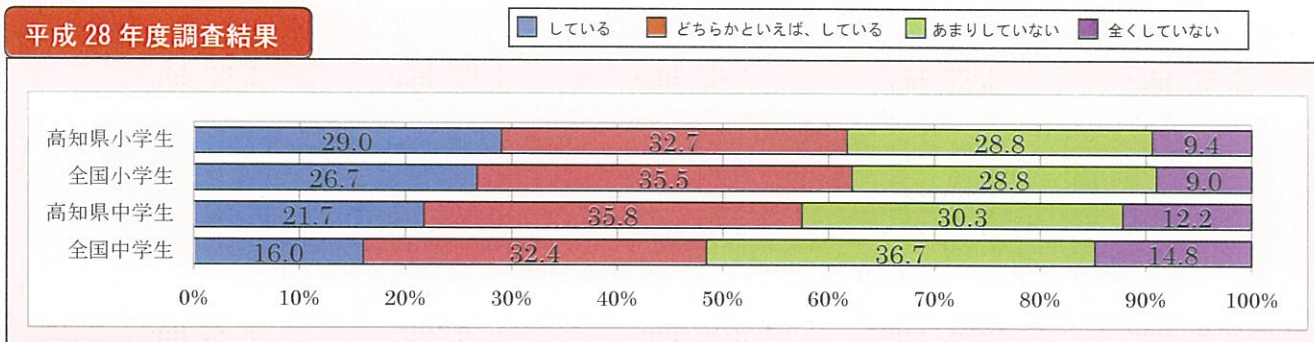


【中学生】



【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】

全国と比較すると、肯定群の割合は、小学生ではほぼ同じであり、中学生では9.1ポイント上回っている。本県のH27年度と比較すると、肯定群の割合は、小学生では3.2ポイント減少しており、中学生では3.3ポイント増加している。



4 質問紙調査の結果（学校質問紙）

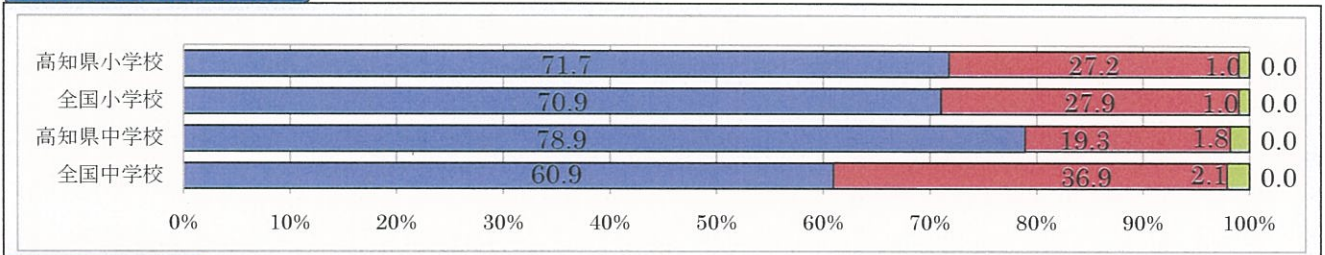
*「肯定群」は、選択肢の「よく行った・どちらかといえば、行った」、「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」、「よくしている・どちらかといえば、している」など、肯定的な選択肢を選択している場合を表している。
 *文中の「ほぼ同じである」は、全国との差が±2ポイントの範囲内にあることを表している。
 *高知県（経年）は、悉皆調査であった調査年度の結果を掲載している。

【指導方法】

【授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか】

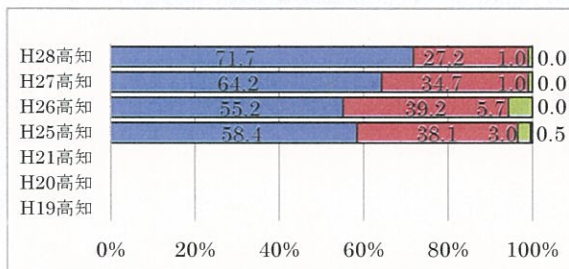
小・中学校ともに、肯定群の割合は、全国とほぼ同じである。

平成 28 年度調査結果

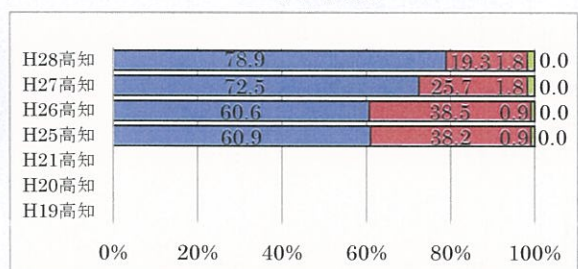


高知県（経年）

【小学校】



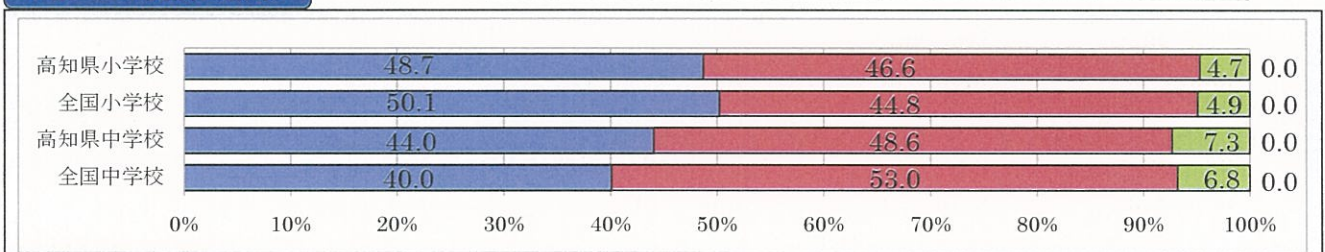
【中学校】



【授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか】

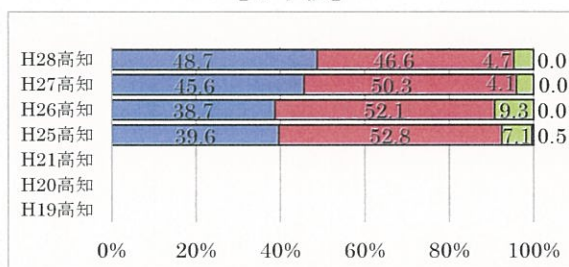
小・中学校ともに、肯定群の割合は、全国とほぼ同じである。

平成 28 年度調査結果

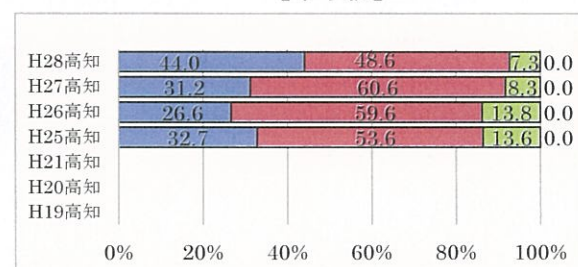


高知県（経年）

【小学校】



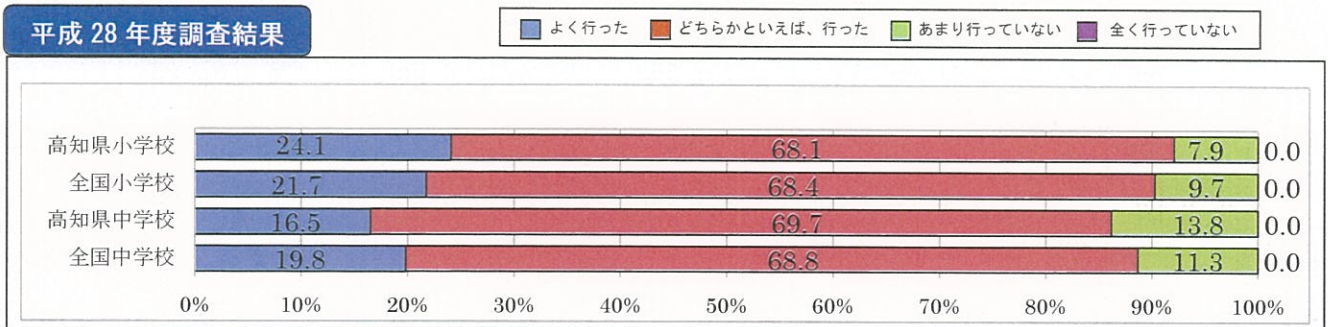
【中学校】



新規項目

【習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか】

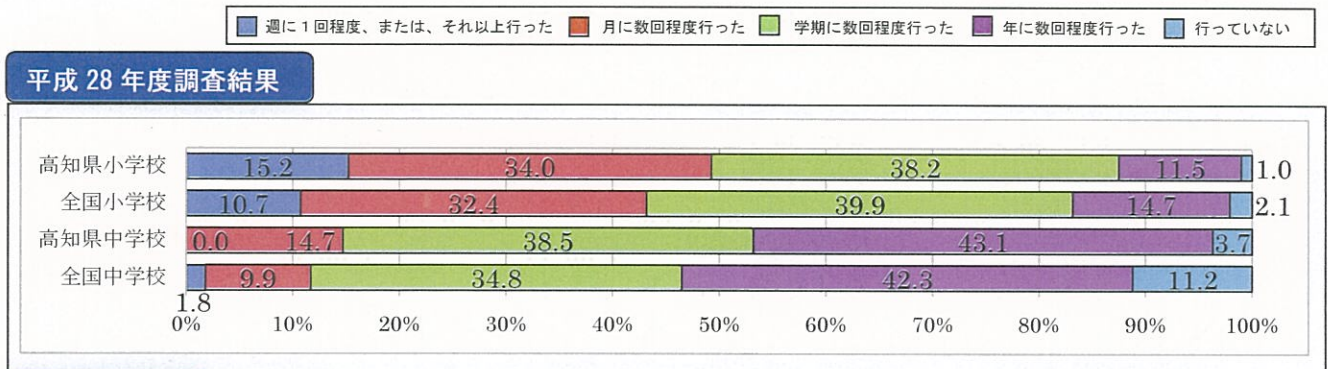
全国と比較すると、肯定群の割合は、小学校では2.1ポイント上回っており、中学校では2.4ポイント下回っている。



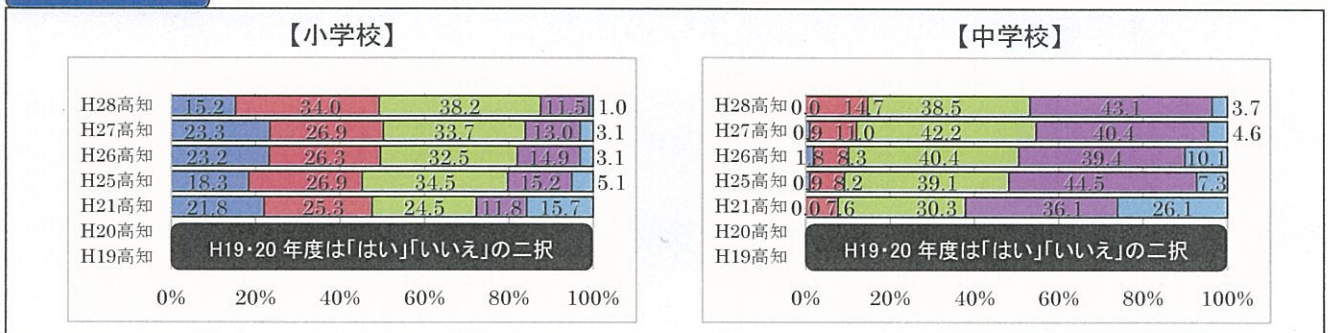
〔学力向上に向けた取組〕

【図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか】

「月に数回以上」行った学校の割合は、全国と比較すると、小学校では6.1ポイント上回っており、中学校では3.0ポイント上回っている。



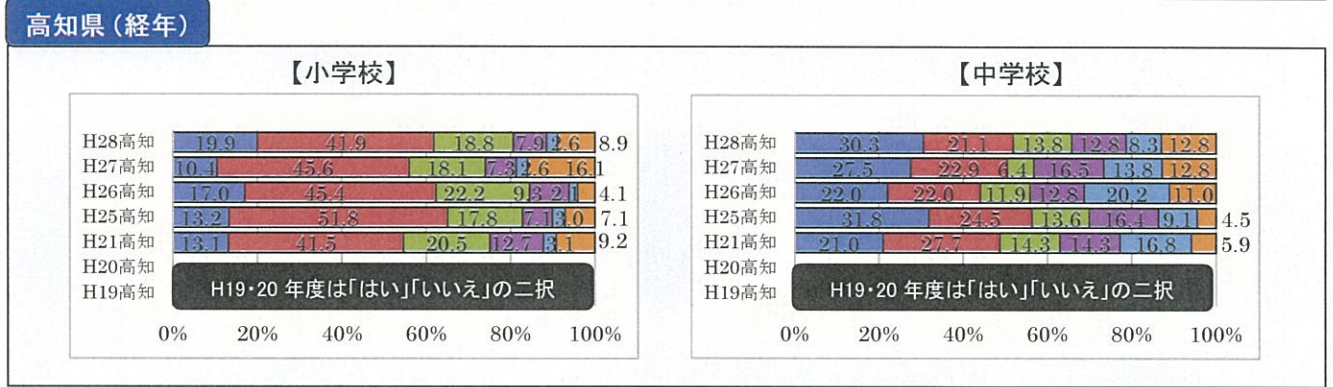
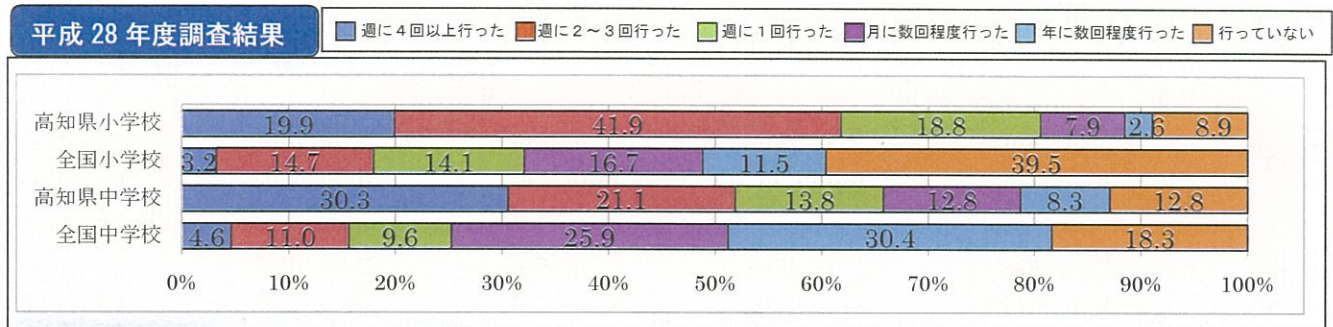
高知県（経年）



※H27年度までは、学校図書館の活用

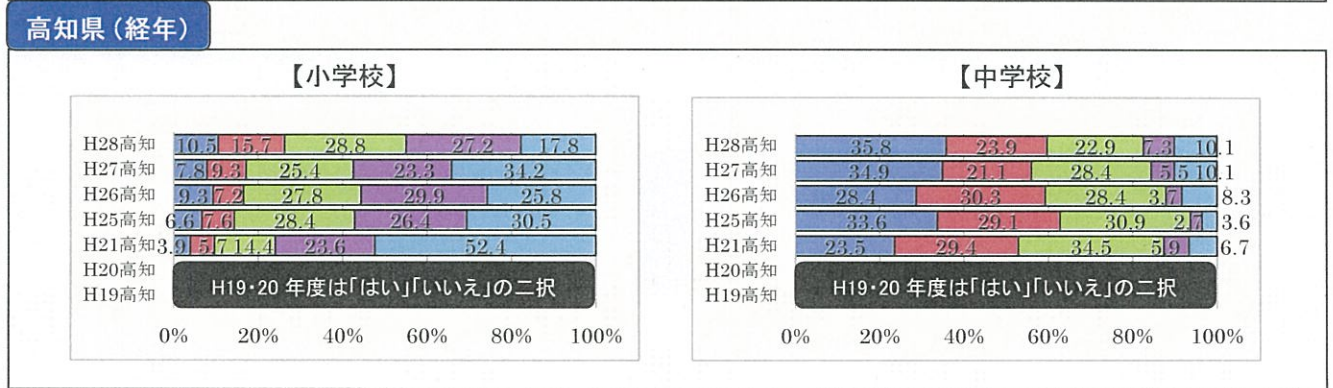
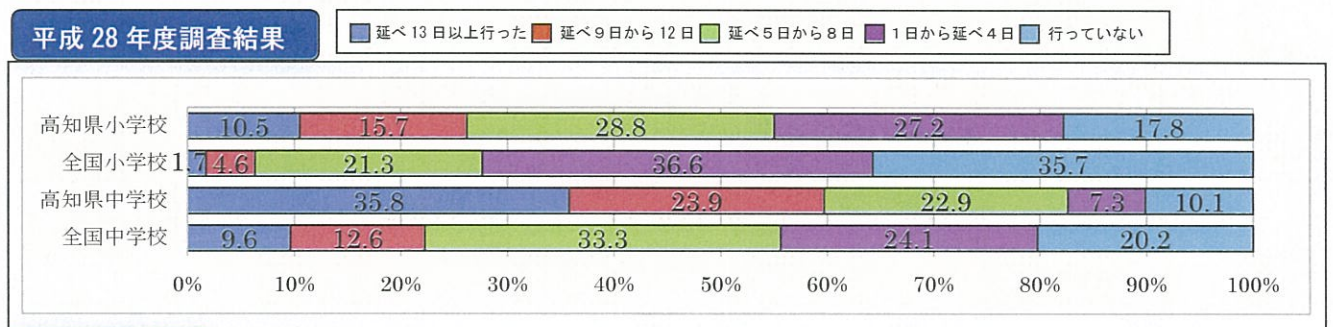
【放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか】

「週に2回以上」実施した学校の割合は、全国と比較すると、小学校では43.9ポイント上回っており、中学校では35.8ポイント上回っている。本県のH27年度と比較すると、「週に2回以上」実施した学校の割合は、小学校では5.8ポイント増加しており、中学校では大きな変化は見られない。



【長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか】

「延べ9日以上」実施した学校の割合は、全国と比較すると、小学校では19.9ポイント上回っており、中学校では37.5ポイント上回っている。本県のH27年度と比較すると、「延べ9日以上」実施した学校の割合は、小学校では9.1ポイント増加しており、中学校では3.7ポイント増加している。

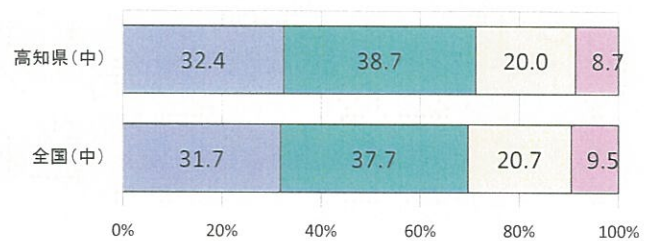
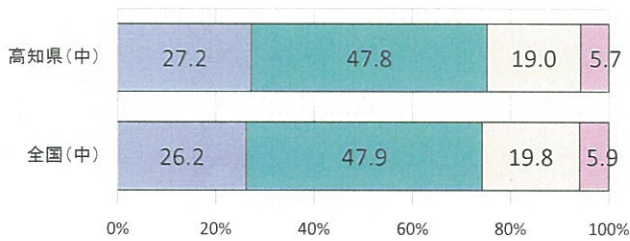


質問紙調査結果

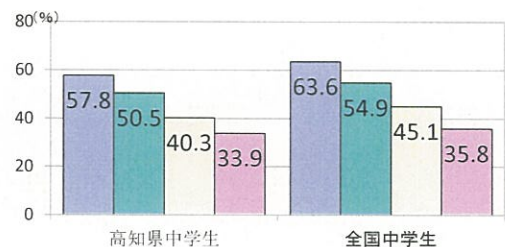
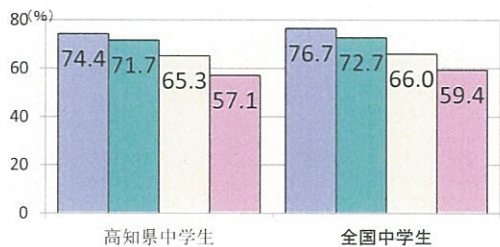
■ 強い肯定 ■ 弱い肯定 ■ 弱い否定 ■ 強い否定

【生徒】国語の授業の内容はよく分かりますか

【生徒】数学の授業の内容はよく分かりますか



正答率との相関がある

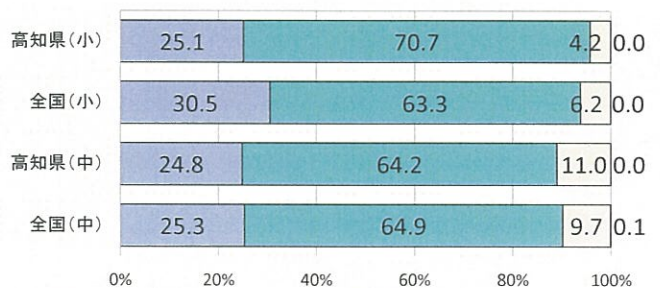
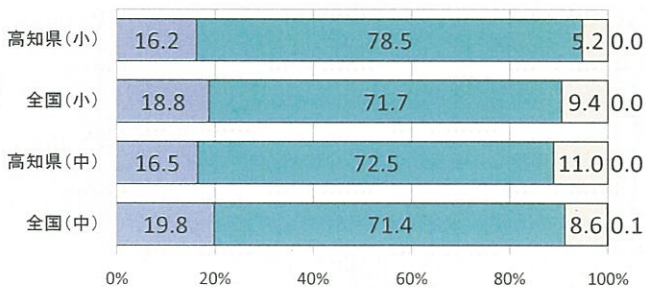


質問紙調査結果

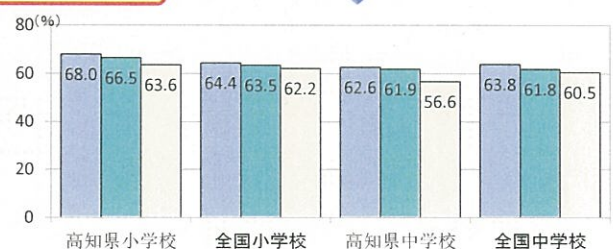
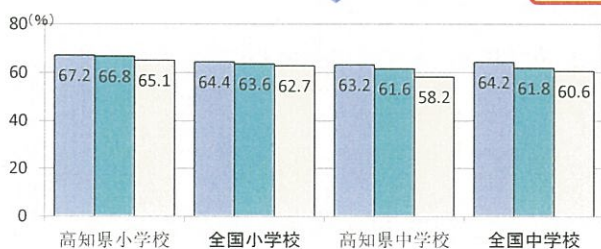
■ 強い肯定 ■ 弱い肯定 ■ 弱い否定 ■ 強い否定

【学校】指導計画について、知識・技能の活用に重点を置いて作成している

【学校】指導計画について、言語活動に重点を置いて作成している



正答率との相関がある



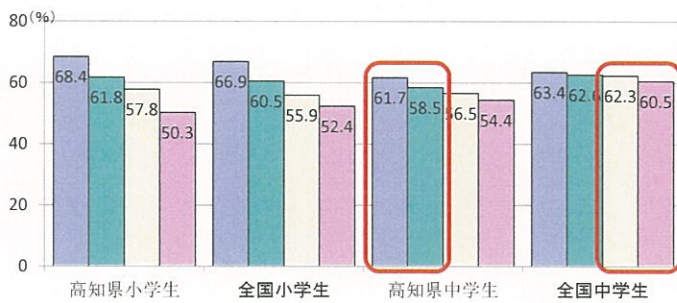
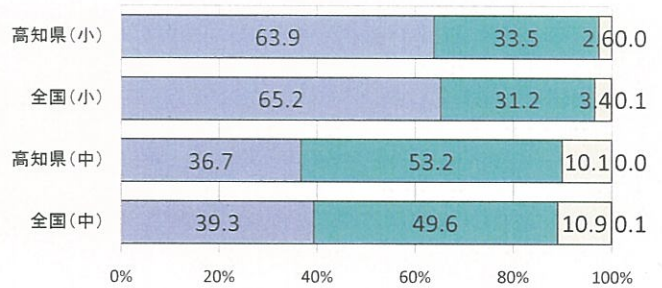
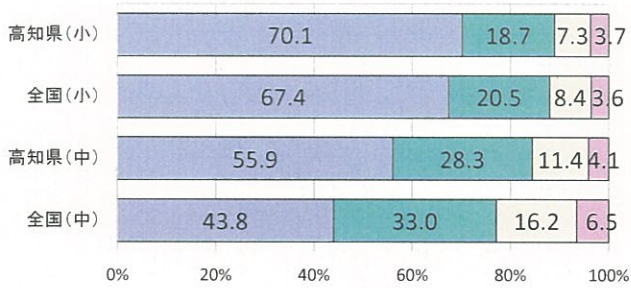
※高知県は強い否定を選択した学校はない
 ※全国は弱い否定と強い否定を合算

質問紙調査結果

■ 強い肯定
 ■ 弱い肯定
 ■ 弱い否定
 ■ 強い否定

【児童生徒】授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた

【学校】授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した



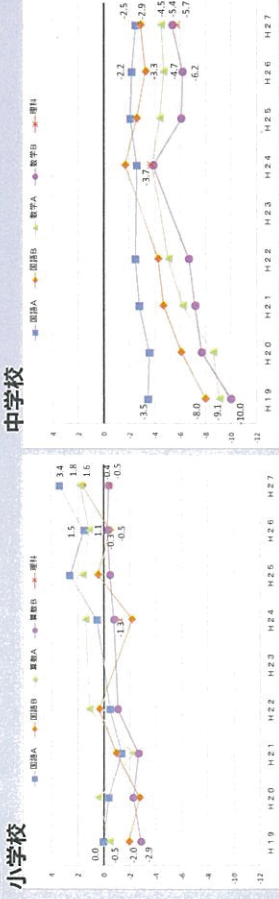
肯定群の割合は、児童生徒、学校ともに全国と同等もしくは高い傾向にある。
 また、学習の目標とまとめを書いていたと思っている児童生徒ほど正答率が高い。

知

平成28年度 県教育委員会 学力向上施策

参考資料

現状 全国学力・学習状況調査結果（全国と本県の平均正答率の差）から



課題
小学校は、全国上位にまで向上したが、中学校は、全国平均に達しておらず、学力の改善状況が足踏み状態にある。
小・中学校ともに思考力・判断力・表現力が弱い。

児童生徒の思考力や表現力の育成
さらなる学力向上を
目指して！
組織的・協働的に
授業力を高める仕組みの構築
(チーム学校)

目標
小学校の学力は全国上位を維持、更に上位を
中学校の学力は全国平均以上に引き上げ



学校の組織力の強化

拡 学力向上のための学校経営力向上支援事業 19,977千円

- ・各小中学校で「学校経営計画」の作成、学校組織全体での共有化
- ・学校経営アドバイザー（7名）による学校への支援
- ・中学校学力向上実践モデル校への支援訪問（1・8校指定）の実施
- ・学力向上研究主学会（年2回）の開催

拡 放課後等における学習支援事業 153,857千円

H28対象学校数：29市町村、小学校93校、中学校77校

児童生徒の学力定着状況の把握

拡 高知県学力定着状況調査実施事業 30,147千円

- ・児童生徒の学力定着状況を把握し、学習指導の充実や指導方法の改善を行う。
【小学校第4学年】国語・算数 【小学校第5学年】国語・算数・理科
【中学校第1・2学年】国語・社会・数学・理科・外国語
- ・授業改善プランを作成し、学習指導のPDCAサイクルを確立する。

調査実施日
平成29年1月11日（水）

全国学力・学習状況調査

【小学校第6学年】国語・算数
【中学校第3学年】国語・数学

調査実施日
平成28年4月19日（火）

学校経営の
チーム化
組織的な
授業改善

教員同士が学び合う仕組みの構築

NEW 中学校組織力向上のための実践研究事業 6,755千円

- ・主幹教諭の配置によるライン機能の強化
- ・教科の「タテ持ち」（1人の教員が複数学年を担当する方式）による実践研究
- ・先進校視察や研究協議会を踏まえた研究
- ・組織力向上にエキスパート等による指導や評価を生かした研究

拡 算数・数学学力向上実践事業 10,975千円

- ・授業改善プランに基づく支援訪問、研究協議会の実施
- ・数学思考力問題集、数学B問題集の活用
- ・改訂版単元テストや算数・数学シートの活用 ・算数・数学思考力リンクの実施
- ・中学校数学教員を対象に教育センターで半年間の研修を実施
- ・教科ミドルリーダー認定者を対象に4日間の研修を実施
- ・中堅教員を対象に地域実践研修を実施

拡 探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業 20,767千円

- ・次期学習指導要領を見据えた学習方法等についての研究委託
- ・学校図書館活動の推進 ・NIE活動の推進 ・授業改善プラン支援訪問の実施
- ・各教科との連携を図った総合的な学習の時間の研究と実践
- ・各教科における探究的な学習（授業づくり）の研究と実践・ICTを活用した授業研究

拡 英語教育推進プロジェクト事業 31,787千円

- ・外国語教育の中核となる「コア・ティーチャー」の育成（年間20名程度） やコア・エリアの指定
- ・早期英語教育の地域拠点モデルの構築 ・英語教育用教材の活用実践事例集の作成
- ・次期学習指導要領の趣旨を先取りした早期英語教育の研究
- ・中学校英語教員の英語力向上講座や外部団体試験の受講
- ・小学校外国語活動の教科化を見据えた外国語活動推進研修やe-Learning研修の実施
- ・中高英語教員の専門力向上のため、英語教育推進研修の実施

高知県英語教育推進のためのガイドラインに基づく取組の充実

【拡】学力向上のための学校経営力向上支援事業

小中学校課

H28当初：19,977千円（一）19,911千円
（H27当初：20,040千円（一）19,974千円）

事業概要

学力調査等で明らかとなった学力問題の課題を解決するため、中長期的な視点に立った学校経営計画に基づく学力向上に向けた取組を支援し、学校の組織力向上と授業改善を図ることで、児童生徒の生きる力の育成を目指す。

期待される効果

各学校において、学力の課題解決を図るための組織的な取組や思考力・判断力・表現力等を育成する授業づくりが充実することで、児童生徒の学力が向上する。

現状・課題

学校経営計画を基に、中期的な視点をもって取組は進められているものの、取組の効果の検証や課題に対する改善策が十分でないため、より組織的、また協働的に取り組むことができるよう学校経営力の向上が必要である。

事業目標

◆各学校における学力課題を解決する検証改善サイクルを確立し、小中学生の学力を向上させる。
【数値目標】H28・29全国調査 小学校…全国平均+3P以上上回る
中学校…全国平均まで引き上げる

実施内容

学校経営アドバイザー（7名）による訪問指導

○教育事務所に学校経営及び教科指導に優れた退職校長等を学校経営アドバイザーとして配置する。

○（東部2名、中部3名、西部2名）各校における学力課題の解決に向け、学校のチーム力や経営力向上

げ、「学校経営計画」に基づく取組の質を高めるために、訪問等における指導・助言を行う。

学校経営力の向上・充実

思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりの推進

中学校学力向上実践モデル校（18校）訪問

○学校経営アドバイザー及び指導主事による指導・助言

【訪問内容】

- ・学校経営計画や授業改善プランの内容や取組について指導・助言
- ・教科経営や授業研究を充実するための指導・助言

授業改善の
サイクル化
教科指導力の
向上

全国学力・学習状況調査結果等説明会

〈対象者〉公立小中学校長、市町村教育委員会等

〈期 日〉平成28年9月6日（火）（予定）

〈内 容〉講話（調査分析等における全国的な情報を有する者）
・実践発表 等

学力向上研究主任会（各教育事務所管内）

〈対象者〉公立小中学校研究主任、市町村教育委員会等

〈期 日〉年間2回

〈内 容〉講話（学校経営における全国的な情報を有する者）
・マネジメント演習
・実践発表 等

【新】中学校組織力向上のための実践研究事業

小中学校課

H28当初：6,755千円（一）6,755千円

事業概要

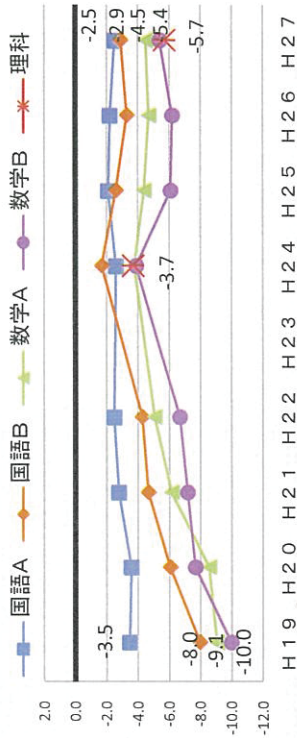
◆中学校において、教科の組織的な指導体制のあり方等についての研究を進めることにより、教員の協力体制や指導方法の改善を促し、組織力の強化（チーム化）と授業力の向上を図る。そのことにより、全国学力・学習状況調査結果から見られる中学校の学力課題（思考力等の育成）の改善を図る。

期待される効果

◆中学校教員の授業力を組織的に高める仕組みを普及することにより中学校の組織力が高まり、学力が向上する。

現状・課題

- ・ここ数年、学力の改善が足踏み状態に留まり、H27年度においてもこの躍り場を脱出できていない。
 - ・特に、数学については△4.5～△5.4ポイントにあり、全国平均との開きがまだ大きい。
 - ・理科においてもH24年度の△3.7ポイントから△5.7ポイントと全国平均との差が開いている。
- ⇒組織的に学力を向上させるための体制が整っていない学校がある。
教科担当教員同士での協議や切磋琢磨の場が少ない学校がある。



事業目標

- ◆中学校の組織力向上と中学校教員の授業力向上を図る。
- ◆生徒の学力（基礎的・基本的な知識、思考力・判断力・表現力）の向上を図る。

【検証方法】
各種学力調査、学校評価等

実施内容

H27年度

モデル校(9校)での体制づくり

- 学校の課題解決に向けた組織体制づくり
 - ・協議会
 - ・県外先進校視察
 - ・研修会

H28年度

モデル校(9校)での研究(H28～29)

1. 主幹教諭の配置によるライン機能の強化
 - 各主任の統括と校務分掌組織の連絡調整
 - 各教科会の指導と進捗管理 等
2. 教科の「タテ持ち」（1人の教員が複数学年を担当する方式）による実践研究
 - 定期的な教科会と日常的な教科会による指導方法研究と人材育成 等
3. 先進校視察や研究協議会を踏まえた研究
4. 組織力向上エキスパート等による指導や評価を生かした研究

H29年度

モデル校の成果の展開・実施校の拡大(H29～30)

- 教科の「タテ持ち」を組織できる学校 30校程度

H30年度

「タテ持ち」の全県展開

- 教科の「タテ持ち」を組織できる学校 30校程度

教員同士が学び合い・磨き合う組織的な仕組みが構築されることにより、中学生の学力が向上する

学校支援訪問

- ◆実施回数：月1回程度
- ◆内容：組織力向上エキスパート（組織マネジメントに優れた退職校長など）等による教科会等への指導・助言

主幹教諭連絡会

- ◆対象：指定校の主幹教諭（年度当初は校長も対象とする）
- ◆内容：主幹教諭の役割や取組事例等について、定期的に協議

研究協議会

- ◆実施回数：年2回
- ◆対象：指定校の管理職・主幹教諭・研究主任等
- ◆内容：講話、実践交流・協議

【拡】放課後等における学習支援事業

事業概要

小中学校における放課後等学習支援員の配置に対して財政的な支援を行うことで、市町村や各学校が実施する放課後の補充学習を、基礎学力の定着や家庭学習習慣の確立等、個々の児童生徒の課題の解決に向けて計画的に対応できるよう充実強化する。

【生活困窮等、厳しい環境にある子どもたちにも十分な学習支援を行い、学力定着により貧困の世代間連鎖を断つ取組としても充実強化を図る。】

現状・課題

市町村の小中学校では、学力の定着に課題のある児童生徒には、放課後や長期休業期間を利用した加力学習を実施している。

○27年度から本制度が開始し、この加力学習に放課後等学習支援員を配置した学校では、個々の学習課題に応じた、よりきめ細かな学習支援が行われている。

▲しかし、**学習支援の質に課題のある学校や支援員が確保できない地域もある。**

実施内容

教員と支援員の連携により
個々のつまずきに応じた学習支援を！

【拡】放課後等学習支援事業費補助金

* 補助対象

- ・市町村等教育委員会が雇用し、管内小中学校において教員の指導のもとに放課後の補充学習の指導補助等を行う支援員の人件費（補助内容・補助率 右表のとおり）

- ・補充学習で使用する教材費、支援員の交通費等（補助率 1/2以内）

* 放課後等支援員の配置状況

○H27：18市町村 174人
（小学校 45校 中学校 46校）

○H28：29市町村 324人
（小学校 93校 中学校 77校）

期待される効果

学力面で課題を抱える児童生徒にも、放課後学習において、学習のつまずきに早期に対応した個別指導、家庭学習指導、さらには入試対策等、一人一人の状況に応じた学習機会が提供できる。

事業目標

◇各小中学校が、**学校経営として低学力対策を位置付け、課題改善サイクルを確立して、学力を押し上げる。**

【中学校目標】H28県学力定着状況調査 中学2年の約20問中5問以下の正解者 国語10%以下(H25 約12%)、数学18%以下(H25 約21%)

小中学校課

H28当初：153,857千円（一）102,037千円
（H27当初：57,629千円（一）38,431千円）

充実

放課後学習支援の質の向上 学校訪問により、組織的な「質」向上策が進むよう、重点的に助言指導

新

「勤務時間4時間超（B）を補助対象に

現場の強い要望①授業から一貫した指導体制の整備 ②指導力のある支援員の確保）を実現するため、力量の高い学習支援員を放課後学習にも積極的に参画するよう、補助対象を拡充

教材費への支援拡充（個人持ちのドリルなど教材費を補助対象とし、保護者の教育費負担を軽減）

【補助内容】

	A 放課後等学習支援員	B 同左（新規拡充分）
補助率	2/3以内（中核市は1/3以内）	3/5以内
勤務時間	原則として1日4時間以内 （準備・片づけ等の時間を含む）	特に定めなし。（1日の勤務時間が4時間を超える場合は本区分Bに該当）
勤務内容	教員の指示のもと行う次の業務 ①放課後・長期休業中の補充 学習での支援（必須） ②補充学習のための教材作成や準備・片付け、宿題の点検 ③個別指導のための担任教員などとの打合せ ④補充学習に参加する児童生徒の授業中の見取りや個別指導等	教員の指示のもと行う次の業務 左記①～④の勤務内容に加えて ⑤学習支援員として授業運営等への参画 ⑥校外活動の引率補助や学校行事への参画 ⑦体験活動の支援業務等 （特別支援教育支援員業務は除く）
負担割合	市町村1/3、県1/3、国1/3	市町村2/5、県2/5、国1/5

【拡】高知県学力定着状況調査実施事業

小中学校課

事業概要

学力調査等の結果から明らかとなった基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して思考・判断・表現する力の育成等の課題を改善するために、児童生徒の学力定着状況を把握し、学習指導の充実や指導方法の改善を図るとともに、各学校及び各教育委員会の学力向上検証改善サイクルを確立する。中学校においては、授業改善プランの作成を通して、課題の改善策を具体的なものとし、学校として組織的に学力向上の取組を推進する。

期待される効果

学校、教員が、児童生徒の学力の定着状況を把握し、その結果を踏まえ今後の手立てや指導の改善を行うことにより、児童・生徒の学力がそれぞれ全国上位・全国水準となる。

H28当初：30,147千円（一）30,143千円
 (H27当初：30,126千円（一）30,122千円)

現状・課題

【H27全国学力・学習状況調査結果：全国平均正答率との差】
 小学校 国語A+3.4 国語B+1.6 算数A+1.8 算数B-0.4 理科-0.5
 中学校 国語A-2.5 国語B-2.9 数学A-4.5 数学B-5.4 理科-5.7
 小学校では、国語A・B及び算数Aにおいて、全国平均を上回る結果となっている。中学校では全ての教科で全国平均を下回る結果となっている。

事業目標

各学校が、学校経営計画や授業改善プランに基づき組織的に思考力や表現力を育む授業づくりを行い、授業改善の効果の検証等に高知県学力定着状況調査等を活用しながら、学力向上サイクルを確立することで、児童生徒の学力を向上させる
 【数値目標】H28高知県学力定着状況調査の記述式問題の正答率 前年度+5P以上
 授業改善プランの年度末検証でB評価以上の学校80%以上

実施内容

高知県学力定着状況調査

調査対象
 【小学校第4学年】 国語・算数
 【小学校第5学年】 国語・算数・理科
 【中学校第1・2学年】 国語・社会・数学・理科・外国語

県教育委員会

- 問題作成（4～10月）業者委託
 問題作成アドバイザー、事務所等指導主事、小中学校課指導主事等（24名）
- 集計（1～2月）業者委託
- 結果分析（2～3月）
 取組の効果の検証

学校・市町村教育委員会

- 調査の実施（1月11日）
- 自校採点
- 結果分析・検証
- 指導改善

学校訪問による
指導・助言

報告書による
指導改善例

学校経営計画の充実 指導方法の工夫改善

○目的

中学校において、授業研究を進め、思考力・判断力・表現力等を育成するために、授業改善プランを作成し、現状の把握と具体的な授業改善の取組を組織的に行い、高知県学力定着状況調査等を評価指標として取組の効果を検証していく学習指導のPDCAサイクルを確立する。

○対象教科

国語、社会、数学、理科、外国語（英語）



授業改善プラン 拡

知識・技能を活用して思考・判断・表現する力の育成
 基礎的・基本的な知識・技能の習得

【拡】算数・数学授業力向上事業

小中学校課

事業概要

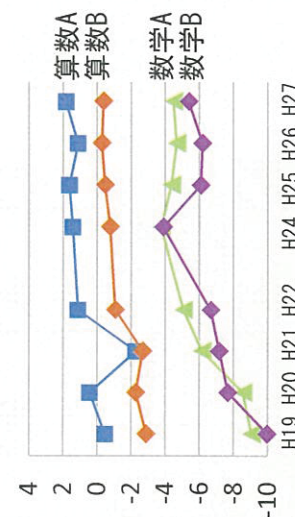
単元テストを知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等が身に付いたことを確かめるものに見直す。また、授業改善プランに基づく支援訪問や授業改善研究協議会等を通して、教員の授業実践力を向上させ、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。

期待される効果

- 算数・数学に関するシート類を見直し、活用することによって、児童生徒に算数・数学の確かな学力が付いたことを確認することができる。
- 研究協議会や学校訪問を実施することにより、数学における課題を解決するための授業改善のPDCAサイクルが確立される。

H28当初：9,000千円（一）9,000千円
 (H27当初：1,881千円（一）1,881千円)

現状・課題



全国学力・学習状況調査結果は小・中学校ともに改善傾向にあるもの、足踏み状態である。特に数学においては、正答率が昨年度よりも改善したもの、いまだに全国平均との差は大きい。

事業目標

- 県発行のシート等を活用し、今求められている力を身に付ける
 (単元チェックの正答率小学校90%、中学校70%、追加する単元チェックの記述式問題の正答率小学校40%、中学校30%)
- 授業改善のPDCAサイクルの確立
 (授業改善プランの年度末検証でB評価以上の学校80%)
- 算数・数学思考オリピックの参加学校数の増
 (H27小学校93校、中学校56校)

実施内容

「わかる」「できる」算数・数学の授業づくりを通して確かな学力を身に付ける

基礎的・基本的な知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体的に学習に取り組む態度

- ◆授業改善プランに基づく支援訪問の実施[H25～]
 - ・各中学校より数学授業改善プランの提出
 - ・各教育事務所管内のすべての中学校へ年間2回の訪問指導の実施

- ◆単元テストや算数・数学シートを活用促進 [H20～]
 - ・単元テストの各シートの見直し
 - ・単元テストシステムの充実
 - ・算数・数学シートの活用促進

- ◆数学思考力問題集及び数学B問題集の活用 [H25～]
 - ・数学思考力問題集指導事例集を活用した授業実践
 - ・指導事例をWEBページに掲載

- ◆高知県算数・数学思考オリピックの実施[H23～]
 - ・考えることや解くことの楽しさを実感できる問題の作成・審査
 対象：小5・6、中2・3 (小4、中1でも参加可能)
 - ・これまでの問題と解答をとりまとめ、WEBページに掲載

- ◆中学校数学授業改善研究協議会の実施
 - ・国研調査官または大学教授の講義及び公開授業
- 【教育センター】教員の資質向上
- ◇教科専門研修生研修
 - ◇ブラッシュアップ研修
 - ◇地域実践研修
- ◆数学の臨時的任用教員の資質向上